

# 喜多方市景気動向調査（平成18年7～9月期）

平成18年11月22日  
産業部商工課

調査時点：平成18年10月

調査期間：平成18年7～9月期実績及び平成18年10～12月期予想

対象企業：市内事業所のうち、従業員20名程度以上の事業所（157社）

回答企業：80社（回収率51.0%）

製造業47社 建設業13社 小売業8社 サービス業12社

（注）

DI（Diffusion Index）とは、景気の動向を捉えるための指標であり、「増加」「好転」「不足」とする企業の割合から、「悪化」「減少」「過剰」とする企業の割合を差し引いた値であり、マイナス幅が大きいほど悪化傾向を示すものである。

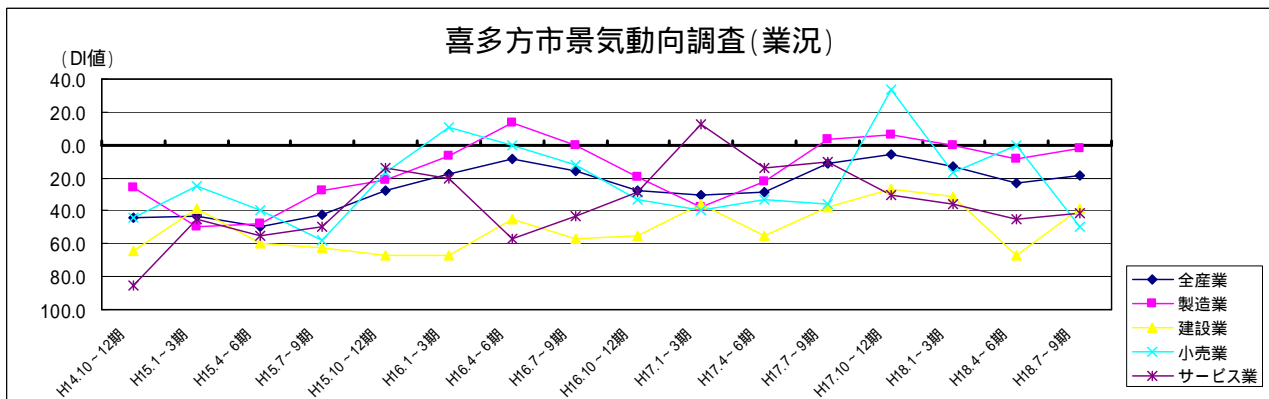
## 1. 全産業の概要

今期の全産業の業況DIは、18.8ポイントと前期比+4.7ポイントとなり、3期ぶりの良化。小売業を除く全業種で業況DIが良化しており、これまでの景気の落ち込みと比べ、さほど落ち込まず、ほぼ横ばいで推移した。

その他の指標については、客数DIと製品在庫DI以外の指標で回復し、特に売上DIが良化しているが、原材料や原油等価格の高騰の影響もあり、採算が悪化傾向で横ばいに推移している。

来期の全産業の予想業況DIは、25.6ポイントと今期比6.8ポイントの悪化。その他の指標もほぼ悪化傾向を示し、景気回復に陰りが見られる。

また、原油や鋼材等の原材料の値上げの影響により厳しい状況にあるが、来期以降も製造業の一部に大規模な設備投資の動きが見られる。



〔単位〕良化・同等・悪化：% DI値：ポイント

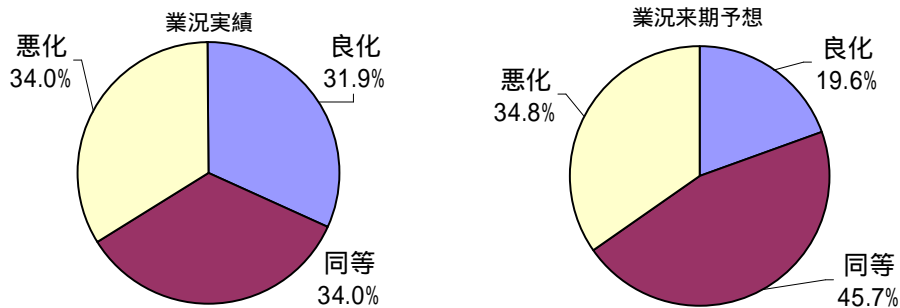
	平成18年7～9月期実績				平成18年10～12月期予測			
	良化	同等	悪化	DI値(前期比)	良化	同等	悪化	DI値(前期比)
業況	20.0	41.3	38.8	18.8(+4.7)	14.1	46.2	39.7	25.6( 6.8)
売上	34.2	26.6	39.2	5.1(+7.2)	23.9	46.3	29.9	6.0( 0.9)
客数	13.6	62.7	23.7	10.2( 5.3)	13.8	60.3	25.9	12.1( 1.9)
採算	10.4	45.5	44.2	33.8(+0.8)	13.2	43.4	43.4	30.3(+3.5)
資金繰り	11.0	60.3	28.8	17.8(+3.3)	11.0	54.8	34.2	23.3( 5.5)
製品在庫	6.1	81.6	12.2	6.1( 4.2)	6.3	81.3	12.5	6.3( 0.2)
設備	14.3	78.6	7.1	7.1(+5.4)	12.5	82.1	5.4	7.1(±0.0)
従業員	11.8	76.3	11.8	0.0(±0.0)	14.3	74.0	11.7	2.6(+2.6)

## 2. 製造業の概要

今期の製造業の業況DIは、2.1ポイントと前期比+6.2ポイントの良化。その他の指標では、製品在庫DI、従業員DIがマイナスとなったほか、それ以外の指標で良化となった。原油や原材料の値上げの影響による採算の悪化傾向が、引き続き続いている。

しかし、設備DIが引き続きプラスとなり、また、大規模な設備投資の動きもあることから、今後の景気回復に向けた明るい動きも見られる。

来期の予想業況DIは、15.2ポイントと景気の悪化が見込まれている。売上DIが良化するが、採算DI、資金繰りDI、製品在庫DIともに悪化が見込まれている。今後とも、原油や鋼材等の原材料の値上げによる影響には、注意が必要である。



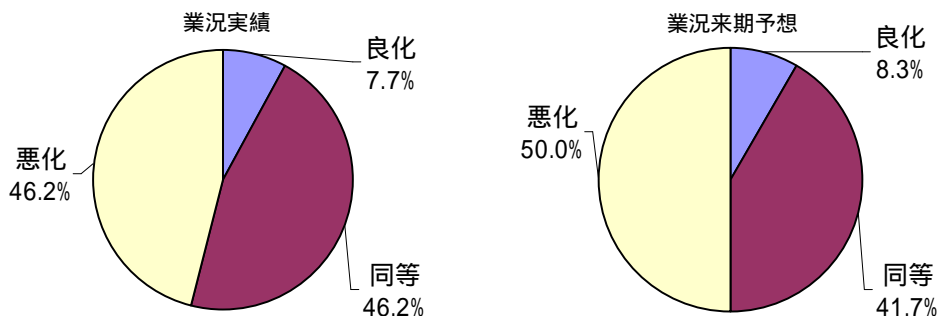
### 製造業

	業況	売上	客数	採算	資金繰り	製品在庫	設備	従業員
前期	8.3	4.2	8.6	22.9	17.4	2.4	2.2	6.4
今期	2.1	14.9	11.1	19.6	6.5	5.4	11.4	8.7
来期	15.2	16.7	5.6	26.7	11.1	13.9	9.1	2.2

## 3. 建設業の概要

今期の建設業の業況DIについては、38.5ポイントと前期比+28.2ポイントの良化となったが、依然として非常に厳しい状況が続いている。

来期の予想業況DIについても、41.7ポイントと3.2ポイントの悪化を見込み、この間の公共事業の停滞に加え、単価低下や同業者間での競争激化の影響等によって、極めて厳しい状況が続くことを見込んでいる。



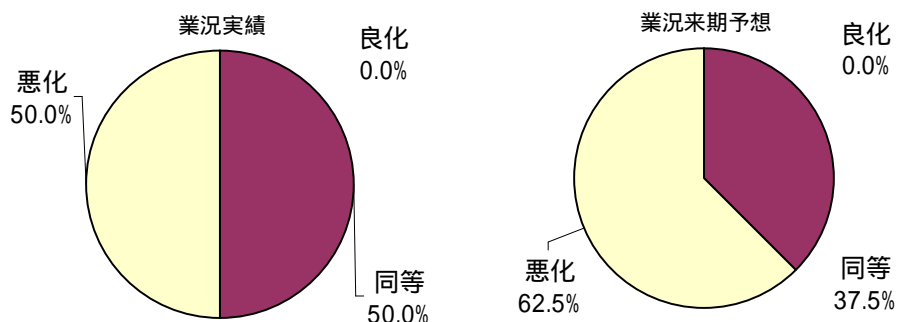
### 建設業

	業況	売上	客数	採算	資金繰り	製品在庫	設備	従業員
前期	66.7	46.7	50.0	66.7	40.0	0.0	25.0	26.7
今期	38.5	30.8	75.0	72.7	41.7	0.0	0.0	18.2
来期	41.7	25.0	50.0	45.5	58.3	0.0	25.0	8.3

#### 4. 小売業の概要

今期の小売業の業況DIは、50.0ポイントと前期比50.0ポイントの悪化となった。その他の指標でも、ほとんどの指標で悪化傾向を示し、消費活動が落ち込んでいることがうかがえる。

来期の予想業況DIについても、62.5ポイントと更なる悪化が見込まれており、年末商戦の時期においても、消費活動停滞の厳しい状況が続くと見込まれている。



#### 小売業

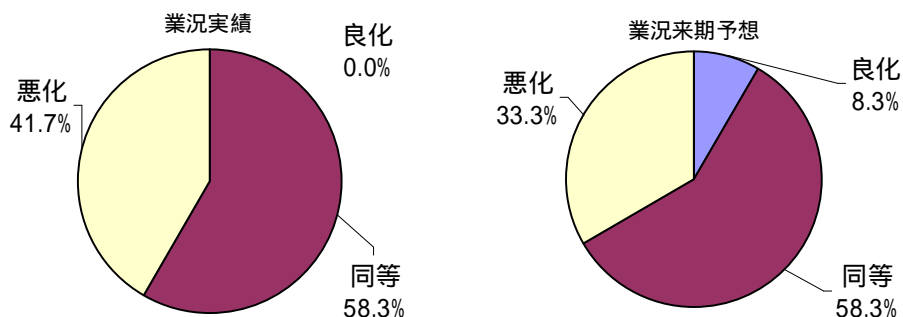
	業況	売上	客数	採算	資金繰り	製品在庫	設備	従業員
前期	0.0	14.3	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	28.6
今期	50.0	37.5	25.0	37.5	40.0	16.7	0.0	28.6
来期	62.5	50.0	37.5	37.5	50.0	33.3	0.0	14.3

#### 5. サービス業の概要

今期のサービス業の業況DIは、41.7ポイントと前期比+3.8ポイントの良化。その他の指標もほぼマイナス傾向を示しており、旅館業、運輸業への燃料価格高騰の影響等が見られる。

来期の予想業況DIは、25.0ポイントで今期比+16.7ポイントと良化が見込まれている。その他の指標も回復傾向にあり、観光業や飲食関係をはじめとして、秋の行楽シーズン等に期待していることがうかがえる。

しかし、燃料価格の値上げの影響には注意が必要である。



#### サービス業

	業況	売上	客数	採算	資金繰り	製品在庫	設備	従業員
前期	45.5	36.4	18.2	54.5	22.2	0.0	12.5	9.1
今期	41.7	36.4	45.5	50.0	30.0	0.0	25.0	0.0
来期	25.0	27.3	40.0	25.0	20.0	0.0	25.0	8.3

## 6. 設備投資の有無

	今期実績			来期予想		
	実施	金額(円)	未実施	有り	金額(円)	無し
製造業	12社	997,660,000	35社	12社	536,900,000	35社
建設業	0社	0	13社	1社	600,000	12社
小売業	1社	6,000,000	7社	0社	0	8社
サービス業	1社	3,000,000	11社	1社	1,500,000	11社

## 7. 従業員の採用状況

	今期実績					来期予想				
	採用	人数	不変	削減	人数	採用	人数	不変	削減	人数
製造業	10社	51人	32社	9社	32人	12社	37人	30社	6社	15人
建設業	4社	10人	9社	0社	0人	4社	7人	9社	0社	0人
小売業	2社	5人	4社	2社	10人	2社	2人	5社	1社	2人
サービス業	5社	30人	6社	2社	4人	6社	20人	5社	2社	4人

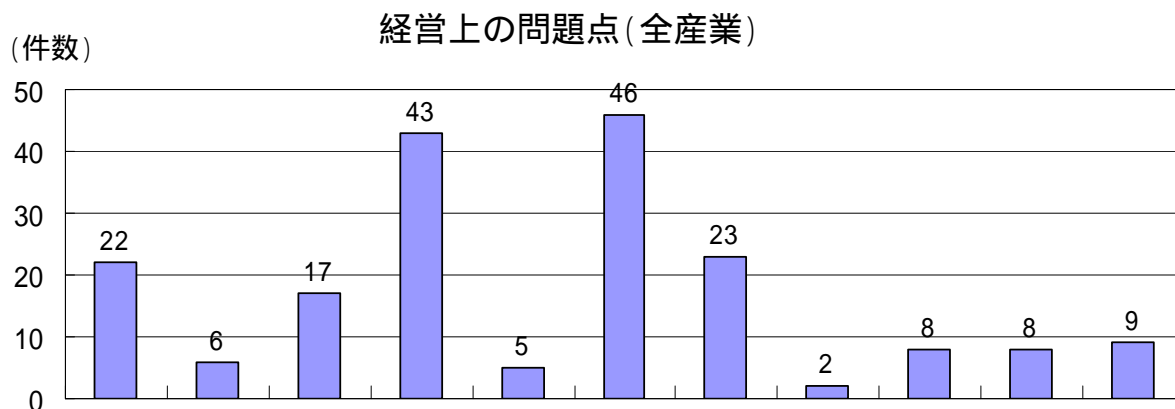
## 8. 経営上の問題点

	製造業	建設業	小売業	サービス業	全産業
需要(官公需要)の停滞	6	10	2	4	22
同業製品の輸入品の増加	6	0	0	0	6
取引条件の悪化	12	2	0	3	17
製品単価(販売・請負)の低下	31	5	2	5	43
大企業の進出による競争の激化	2	1	1	1	5
同業者間での競争の激化	24	12	4	6	46
消費者ニーズの変化への対応	14	0	4	5	23
過剰人員	2	0	0	0	2
新規参入業者の増加	3	1	1	3	8
資金繰りの悪化	5	1	1	1	8
その他	5	2	1	1	9

その他：製造・・・海外生産への移行、材料高・製品安、原料価格高騰、人員不足、人材不足

建設・・・低価格入札、受注1件あたりの金額減少

小売・・・自社努力不足      サービス・・・金利が高い



## 9. 事業所からの主なコメント

【製造業】	自由意見	詳細業種名
	・ 営業活動している。	放電管の組立加工
	・ 製品開発における公的補助金の調査	電気機器製造業
	・ 原材料の高騰は依然続いており、売価に反映させないと経営が困難になる。	金属屋根製造業
	・ 市場は価格競争が続く一方、生き残りをかけて高付加価値のものづくりを目指す企業も増えているようだ。	金属屋根製造業
	・ インフレとデフレが混在した市場になっているが、不毛の価格競争に速く終止符を打つよう、各業界が結束していくことを望む。	金属屋根製造業
	・ 自動車業界の競争激化により、海外の顧客で生産調整、規模縮小などの動きがあり、販売数量の低下が見られる。	アルミニウム合金 鋳造
	・ 原料価格の高騰が続いており、収益を圧迫し、売上・利益が少し下降の様相を示す。	アルミニウム合金 鋳造
	・ 全体としては、昨年度より販売を伸ばしており、業績は堅調に推移。	アルミニウム合金 鋳造
	・ 公共事業の激減により、需要の停滞、製品単価の低下、同業者間での競争激化の状況で、経営上厳しい状態である。	コンクリート二次 製品製造販売
	・ 車両部品の増加が著しい中で、旧態依然としてマシン部品の小ロットのものが残っているため、採算効率を悪化させている。	車両・空圧・マシン 部品製造業
	・ 車両部品対応のため、設備導入を計画しても工場内スペースが不足し、相手先発注に対し、機会利益を逃している。	車両・空圧・マシン 部品製造業
	・ 顧客要望事項が多様化して拡大している。管理間接費用の増大につながり、経営を圧迫している。	金属部品加工
	・ 仕事量としてはまずまずだが、短納期、コストダウンに苦慮している。	金型及び精密部品 加工
	・ 中国への進出が進み、国内で製造していたものが、中国に移行され、仕事量が半分以下になった。	電子部品組立
	・ 競争が激化し、そのことによりコストダウンが要求され、経営的にもかなり厳しくなった。	電子部品組立
	・ 低金利での資金繰りができない。	電子部品組立
	・ まだまだ海外での生産が多く、国内での生産の分は納期的にもクイックなものが多く、また、加工賃も安く作るため、売上げをあげることは難しい。	婦人服製造業
	・ いざなぎ景気越えの話聞くが全く実感がない。実態を感じ取ってほしい。	縫製業
	・ 世の中の景気最高のようなニュースですが、中小企業及びそこで働く従業員の収入は、減収となっている。抜本的な見直しが必要と思われる。(政治的な)	金属製品製造業
	・ 原材料が値上がっているにもかかわらず、毎年のごとくコストダウンの要求があり、益々収入悪化になる。	金属製品製造業
	・ スキル不足により仕事依頼に対応しきれないため、スキルの高い人材を採用したい。	工作機械製造業

・ 利幅が少なくなっているため、量を確保したい。	工作機械製造業
・ 海外への輸出が好調、高品質清酒の販売増。	清酒製造業
・ 設備の老朽化、修理費の増加。	清酒製造業
・ 受注量（仕事量）は増加しているが、社員の高齢化、後継者不足等、人材不足が大きな課題である。	婦人服縫製業
・ 受注数量の増加、それに伴う生産数量の増加なるも、採算的には芳しくなく、生産効率の大幅アップを図る必要あり。	羊毛紡績業
・ 製造業の宿命なのか、安定性が何時まで保持できるか悩みは尽きない。	電気機器製造業
・ 一部受注において、請負条件の悪化（低下）が見られ、また、労働条件も厳しくなり、税制面でも益々厳しくなり、条件の悪化に歯止めをかけさせていく施策を考えていかねば、この地域での事業継続も危ぶまれる。	電気機器製造業
・ 生麺業界全体がギリ貧状態になっており、相当の収益構造の改善が必要になってきている。特に同業界でも明暗が分かれており、企画業務は収益安定。スーパー向けの生麺業者は、物流コストなどを始め、コスト増を余儀なくされている。	生麺製造業
・ 生麺だけでなく食品業界全体が厳しい経営を強いられる時代が当面続くものと予想しております。	生麺製造業

【建設業】	自由意見	詳細業種名
・ 入札制度を改善すべきである。最低制限価格の設定。ランクと発注金額の関係。		土木工事業
・ 低価格入札（契約） 安ければよいでは問題である。品質工期の問題が出る。（良いものはできない）公共工物品質確保法の規定が守られていない。		土木工事業
・ 現実に工期が守られず、現場付近住民が困却している。また、下請業者へ工事代金を支払していない問題がある。		土木工事業
・ 競争原理は良いが、内容を役所は検討しているのか。一定価格以下は、失格にすべきである。		土木工事業
・ 合併に伴い同業者が増し（指名参加願いを提出すれば誰でも指名に入る状態）受注件数が大幅に減り、会社経営を考えると先々不安の山積みである。		建設業
・ 公共工事の発注形態（指名業者）が不自然であり、また、低価格落札が多くなり、力のない企業は倒産に追い込まれ、近いうちに結構の数の失業者が出ることが予想される。		建設業
・ 低価格で落札受注をしても、果たして良い製品、品質を保たれるのか、また、施行検査及び竣工検査等は適正に行っているのか。		建設業
・ このような状態で予算を浮かして、果たして市民（行政）は満足しているのか早急な改善が望まれる。		建設業
・ 一部建設資材の値上げや、品不足がある状況。		総合建設業
・ 低価格入札が相変わらず多い。工事の品質確保ができるのか懸念される。最低価格を設定すべきと思う。		土木工事業

【小売・卸売業】	自由意見	詳細業種名
	・ 客単価は上昇、買上げ点数が減少傾向。	スーパーマーケット
	・ 原油高騰で製品原価の上昇があるが、売単価は低下の傾向が続いており、荒利益率が下がっている。	ホームセンター

【サービス業】	自由意見	詳細業種名
	・ 管内の需要全体が縮小傾向にあるなかにおいて、利ザヤ収入を維持することは困難となっており、役務収入、手数料収入により、減収分を補完する形となっている。	銀行業
	・ 合併後税金の取立てが厳しくなった。民間企業実態を十分把握し、対処してもらわないと倒産に追い込まれる危機を感じる。	旅館業
	・ 固定資産税の軽減等の優遇措置をしてもらわないと東山温泉の二の前になる。	旅館業
	・ 若者が安心して働ける場所を確保してください。	新聞販売業
	・ これからの時代を見据えたまちおこしをしてください。	新聞販売業
	・ 契約以外の業務(サービス業務)をさせられることが多い。少々のことは仕方ないと思うが、最近はあまりにも多すぎる。	測量設計業
	・ 介護とタクシーを合わせた営業活動が少しずつ利益の増加になってきたが、ヘルパーの人材が集まらなくて一番困っている。	タクシー業
	・ 喜多方の傾向として介護は多くなっていくと思われる。また、介護車両購入に際しての行政からの補助が望めればよいのだが。	タクシー業
	・ 山形は5年間賃料40万円を支払っていたが、今回資産購入することで、年間480万円の賃料が今後資産に変わるもの。	運送倉庫業
	・ 軽油単価は交渉により、10月から97円60銭と前月比2円40銭下がったが、売上に転嫁できないことから、4月から月額100万円支払が増加しているのが現状。燃料高騰を補うだけのコスト削減に限界が生じてきている。	運送倉庫業